

新 飼料用稲生粃サイレージの増収・品質向上・省力化技術の開発(平成24～26年度)

県産飼料米の増収と 新たな利用技術の開発

現 状

○現在栽培されている飼料米の多くは食用品種で収量は低い。
○飼料米は、輸入穀物と比較して安価であるが、コストをかけて乾燥させ、貯蔵している。



○収量の高い専用品種の本県での栽培方法は？
○乾燥させずに生のまま貯蔵、利用することができないか？

○サイレージとは

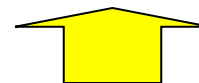
牧草等を密封して空気を遮断し、乳酸発酵をさせることで、保存する技術。本試験では破碎処理した生の粃米をサイレージ化する。

研究目標

- 生粃サイレージ生産 1t/10a
- 1年以上の長期保存(年間給与が可能)

期待される効果

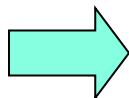
- 畜産農家の飼料米利用拡大



研究内容



収量の多い品種の栽培



乾燥調製作業が不用
=稲作農家のコスト低減



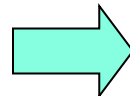
生粃



粉碎



サイレージ化



酪農家や肉牛農家で利用

〈検討項目〉

- 1 生粃発酵飼料(生粃サイレージ)用イネの品種の選定
- 2 生粃発酵飼料(生粃サイレージ)の品質向上および長期保存

- ・各品種の収量、施肥量、刈り取り適期、発酵品質
- ・乳酸菌添加量、水分添加量
- ・詰め込みバッグの素材
- ・調製作業の省力化